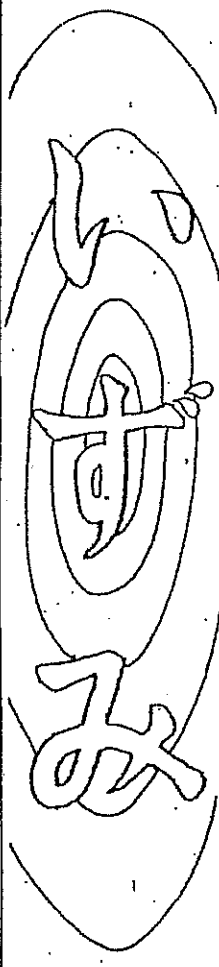




社内報

☆☆☆☆☆☆



☆☆☆☆☆☆

通巻第279号

平成23年9月号

発行者

編集

藤田 勇輝

志賀 由佳子

近藤 伸男



第六十一期決算報告

代表取締役 古庄 忠信

今月は皆様とお約束した通り、前期の決算報告をします。平成22年度は、年度初めからイズミ車体株式会社を板金車検センターとして統合し、新体制で臨んだ年度でした。売上高も予想通りに推移していき、新設した板金センターの増設



大型倉庫の建設など設備投資も活発に行いました。下半期になると、例年通り工場はフル稼働して生産消化に

総売上高	217,504
製造原価	184,091
売上利益	33,413
販売管理費	31,350
営業利益	2,062
営業外損益	-1,945
経常利益	117
雑損失・法人税等	1,911
当期純損失	-1,794

単位は万円
平成22年度(第61期)決算書抜粋

あつていまして、3月の東日本大震災が起き、自動車メーカーの生産中止、材料の入手が困難になるなどの予期せぬ事態に工場の予定も大幅に狂い、最後の四半期は厳しい業績になりました。総売上高は2億7504万円となり、板金車検センターの売上上げを合わせても昨年比97%と減収しました。

その内訳は、福祉車両売上高2億1350万円、特装車両売上高1億9224万円(昨年比99%)、修理売上高、板金車検売上高、その他売上高1億9666万円(昨年比207%)という結果でした。製造

原価の面では、材料仕入高4億9646万円(昨年比88%)、車体仕入高6億3487万円(昨年比78%)、外注費3億4873万円(昨年比100%)と当初計画の数字程度に抑えられましたが、決算上では、材料の粗卸仕掛り工費や減価償却などが加算され、総額18億4091万円(昨年比96%)となり、販費、一般管理費に積みましては、年間を通じてほぼ予定通りに推移し、総額3億1350万円(昨年比116%)となりました。増加した原因としては、統合による人件費等の諸経費増が主で、その他に会社設立6周年関係の経費などがあげられました。よって営業利益が2億62万円となり、営業外損益を加えた経常利益が1億17万円と、昨年比で3%未満の大幅な減益となりました。これに長嶺工場の整理損などの営業外特別損益を加えて、当期純損失として、1億794万円を計上しました。

ISO PDCAサイクル

PDCAサイクルについてはこの場で何度も説明してまいりますが、おさらばのつもりでもう一度、今回は失敗するPDCAサイクルについて、ISOにおける継続的改善の手段である、プラン(計画)↓ドゥ(実行)↓チェック(評価)↓アクト(改善)のプランのサイクルを繰り返していくPDCAの最大

イズミ車体製作所のホームページがリニューアルされました。基本的なデザインはそのままで、車両

のキモはチェックです。評価ができていなければ何が悪いのか、どう修正すれば良いかが分からずに改善へ結びつけられず、PDCAサイクルがストップし、そのまま終了してしまいませんか。まさに時間と資源のムダです。理由は簡単です。それはプランの時にどのようなチェックをするのか、評価方法を決めていないからです。

刷新、板金車検センターやフミンコーティングなども新しくなっています。ぜひご覧ください。

作業標準書を書くには、目的となる作業の工程を時系列で並び、必要であれば写真や撮り、紙に書いた貼り付けたりします。これがドウです。

作業標準書を書くには、目的となる作業の工程を時系列で並び、必要であれば写真や撮り、紙に書いた貼り付けたりします。これがドウです。

ではチェックは？ 標準書ができたのでそれをファイルして満足する、で良いのでしょうか。答えはノーです。正しいチェックの方法は、その作業標準書を熟練者、経験者、素人など色々なレベルの作業者に渡し、実際にその作業をさせてみて分かったところを修正する。これを繰り返していき、作業標準書が完成するまでPDCAサイクルをまわしていき、作業標準書の本来の目的は、本間に良い製品をつくるためのものだから、作業標準書により、仕上がり差があつてはならないものだからです。

名前：大原 誠
生年月日：昭和57年12月12日
配属：製造一課



ピカイチ！

掲示板 9月号

第17回イズミ車体大運動会
日時：平成23年10月22日
場所：午前9:00～予定
本社グラウンド
皆様盛り上げていきましょう!!

健康増進普及月間
9月は厚生労働省が推進している健康増進普及月間です。標語もありません。しっかりと健康に食事を最後にクヌリましょう。

